

炭素14年代を用いた 粘土帯土器の実年代

泗川芳芝里遺跡の資料を中心に

The Calendar Date of the Pottery with Clay Stripes Using Radiocarbon Dating:
Mainly on the Bangjiri Site at Sacheon, South Korea

李 昌熙

LEE Chang-hee

はじめに

①芳芝里遺跡出土動物骨の炭素14年代調査

②年代的考察

③粘土帯土器の実年代

おわりに

【論文要旨】

韓半島南部の泗川芳芝里遺跡から出土した動物骨より抽出したコラーゲンをを用いて AMS-炭素14年代測定を実施した。試料採取の際、層序と遺物の組成を考慮し、海洋リザーバー効果の影響を受けないシカの骨を主な対象とした。測定値に考古資料による検討を加え、慶南勸島遺跡や長崎県原の辻遺跡資料の炭素14年代と比較しながら、実年代の把握を試みた。検討の結果、芳芝里遺跡の形成時期はBC5世紀代であり、韓半島における円形粘土帯土器は芳芝里遺跡より早いBC5世紀代のある時点、もしくはBC6世紀代に遡って出現する可能性を得た。勸島式土器の出現時期については現在の資料に関する限りBC200年を前後する時期と把握した。これらの実年代は、従来の円形粘土帯土器および勸島式土器の年代観よりも100年ないし50年以上さかのぼる数値であるが、弥生時代の新年代観および併行関係とほぼ一致する結果となった。

【キーワード】 芳芝里遺跡、円形粘土帯土器、三角形粘土帯土器、勸島式土器、炭素14年代測定、実年代